

第 105 回 全国大学獣医学関係者協議会 議事録

日 時：平成 28 年 9 月 5 日（月）13～15 時 30 分

場 所：東京大学農学部 1 号館 8 番教室

出席者（敬称略）：

（会 長） 尾崎 博

（副 会 長） 杉谷博士

（北海道大学） 稲葉 睦、昆 泰寛、滝口満喜、大橋和彦、坪田敏男、石塚真由美

（帯広畜産大学） 石川 透、倉園久生、古岡秀文、松井基純、山岸則夫

（岩手大学） 佐藤 繁、高橋 透、木崎景一郎、山崎真大

（東京大学） 前多敬一郎、久和 茂、桑原正貴、辻本 元、中山裕之、杉浦勝明、  
芳賀 猛

（東京農工大学） 渋谷 淳、竹原一明、渡辺 元、福島隆治、田中知巳

（岐阜大学） 北川 均、石黒直隆、杉山 誠、海野年弘、鈴木正嗣

（鳥取大学） 菱沼 貢、日笠喜朗、澁谷 泉、岡本芳晴

（山口大学） 木曾康郎、奥田 優、佐藤晃一

（宮崎大学） 保田昌宏、永延清和

（鹿児島大学） 三角一浩、三好宣彰

（大阪府立大学） 竹内正吉、笹井和美、嶋田照雅、山手丈至

（酪農学園大学） 谷山弘行、竹花一成、及川 伸、山下和人、伊藤真美

（北里大学） 高井伸二、宝達 勉、小山田敏文、佐藤久聡、岡野昇三、上野俊治

（日本大学） 大矢裕治、丸山総一、中山智宏、森友忠昭、北川勝人

（麻布大学） 浅利昌男、山下 匡、斑目広郎、折戸謙介、土屋 亮、金子一幸

（日本獣医生命科学大学） 河上栄一、小山秀一、左向敏紀、新井敏郎、尼崎 肇、

田崎弘之、藤田道郎、和田新平、鈴木広悦、堀 達也、盆小原誠

（特別出席） 文部科学省 高等教育局専門教育課課長 浅野敦行、

課長補佐 辻 直人、科学・技術教育係長 小野 隆彦

農林水産省 消費・安全局畜水産安全管理課課長 磯貝 保、

課長補佐 大石明子、動物衛生課 国際衛生対策室長 伊藤和夫、

国際獣疫班課長補佐 大倉達洋

公益社団法人日本獣医師会副会長 酒井健夫、事業担当主任 松岡 猛  
(事務局) 東京大学：望月 学、堀 正敏  
NPO法人獣医学教育支援機構：伊藤勝昭、伊藤茂男

以上95名

尾崎会長の開会宣言の後、事務局から資料の確認が行われた。

次いで文部科学省高等教育局専門教育課課長 浅野敦行氏、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長 磯貝保氏、日本獣医師会副会長 酒井健夫氏より来賓のご挨拶があった。

次いで第104回全国大学獣医学関係者代表者協議会議事録が承認された。

### (1) 報告事項

#### 1) 第80回国公立大学獣医学協議会報告(北大・稲葉先生)

以下の4点について報告があった。

1. 各大学の現況報告：全国的に予算状況は厳しい。人件費削減、教育への影響が懸念されている。病院経費の流用による特任教員の雇用などの工夫が行われている。
2. CBT、OSCE、28年度実施への準備は粛々と進められている。
3. 協議会会費を2万円に変更する。状況に応じて今後も変更する可能性がある。
4. 獣医学教育第三者評価について現状報告があった。

#### 2) 日本私立獣医科大学協会(法人化後に理事会と改名)(酪農学園大・谷山先生)

1. 各委員会からの中間報告が行われた。
2. 年会雑誌 獣医学振興 第6号が発行された。
3. 自己点検自己評価は北里大による取りまとめが行われた。
4. 第三者評価について私獣協は大学基準協会の評価を受けることを決定した。
5. CBT、OSCE 準備は各大学で粛々と進行中である。

#### 3) その他

特になし。

### (2) 協議事項

#### 1) 獣医学教育評価について

尾崎会長から、大学基準協会(以下基準協会)と全国協議会との間で交わされたやり取り(公式文書)をたどることで、これまでの経緯が説明された(資料p1-18)。また資料p18の基準協会からの返答の後、尾崎会長の判断で全国協議会幹事会が平成28年6月28日に開催され、この幹事会での検討内容(資料p19)を第105回全国協議会に諮ることとなったことが報告された。

この点について質問あるいは意見が出されたのちに、会場一致で幹事会からの案を了承した。

合意内容：

- 全国大学獣医学関係者代表者協議会（全国協議会）（吉川会長、政岡副会長）が（公財）大学基準協会（基準協会）に獣医学教育評価を依頼した経緯から、全国協議会は加盟各大学が基準協会の評価を受審することを推奨する。全国協議会は、本評価に向けた基準協会の取組に協力する。
- 薬学教育評価機構が作成した「薬学教育評価ハンドブック」に倣い、獣医学教育評価に関するハンドブックを基準協会で作成する。これを示した上で、基準協会は各大学に受審を働きかける。
- 本評価は法的根拠に基づくものではない任意の評価であることから、各大学は自主的な判断に基づき受審の申請を行うこととする。
- 本評価の実施対象が各大学単位であることから、共同教育課程については、その趣旨に照らして受審は当面困難であると考えられる。
- 受審校の決定は基準協会が行うことであり、全国協議会は直接それに関与しない。
- 基準協会による獣医学教育評価の過程で見いだされた改善点に関しては、基準協会での検討を進める。
- 適・不適の二段階評価法、共同教育課程の評価法、評価料等についての課題は残されており、引き続き基準協会に検討を求める。また、試行評価が二大学で実施され結果が示されたが、評価プロセスならびに内容に関して改善が求められる。

この結果を基準協会・中山先生に提示し、了解を得た。

中山先生（基準協会）から資料（当日配布、大学基準協会 最終検討結果）に基づいて説明が追加された。

## 2) 共通テキスト編集委員会報告（北大・昆先生）

北大・昆先生から資料 p21 を用いて説明があった。すでにテキスト 30 冊が刊行され、10 冊が編集作業中である。また共通テキストの使用状況についてアンケートが実施され、その結果も報告された（追加資料の 3）。

尾崎会長から、共通テキストをさらに普及させたいこと、電子化も積極的に進めたいとの意向が示された。

## 3) コアカリキュラム検討委員会報告

山口大・佐藤先生から報告があった。コアカリは共用試験、共通テキスト、国家試験など全ての基礎であるが、現状のコアカリは内容が盛りだくさんで、コアとアドバンスが混在している。また曖昧な表現などもある。コアカリの定義付けを再度明確にし、今後の改定作業を円滑に進めるため、連絡委員会（各大学から 1～2 名を選出）を設置した。

#### 4) 動物診療施設委員会報告

東大・辻本先生から参加型臨床実習については動物診療施設委員会から独立させた旨の報告があった。全国の動物診療施設の活動内容は前回 104 回協議会で報告された通りだが、診療施設は少ない人員でなんとかやりくりしているとの現状報告があった。

#### 5) 参加型臨床実習検討委員会報告

尾崎会長からこの参加型臨床実習検討委員会の設立経緯について説明があり、前委員長の麻布大・土屋先生（前委員長）から資料 p22-50 を使って報告がなされた。平成 28 年 3 月の調査結果をもとに実習のガイドライン、マニュアル、協力者への謝金、指導獣医師の教員資格などについて検討が必要であると報告された。

尾崎会長と土屋前委員長から、各大学はこの文書を持ち帰り平成 28 年 12 月末までに各大学で再度意見を取りまとめて次回の全国協議会で最終的に決定し、平成 29 年 3 月には正式マニュアルとして策定すること、さらに外部機関（NOSAI 等）の関係者へ配布したいとの意向が示された。

また尾崎会長から実習委託先への経費負担について薬学、医学、看護での状況報告があり、獣医師会との協議が今後必要となるだろうとの意見が述べられた。

#### 6) 全国共同実習事業報告

東大・杉浦先生から大学における公共獣医事教育推進委託事業『分野 1 公衆衛生分野における全国実習システムの構築』の今年度の活動について報告があった（資料 p51-57）。13 校の協力で、国 55 名、県 35 名、市 23 名の合計 113 名の参加があった。

次いで岐阜大・北川先生から、『分野 2 畜産等分野における全国実習システムの構築』の今年度の活動について報告があった（資料 p58-59）。平成 28 年度は 166 名が参加した。

#### 7) 広報委員会報告

山口大・佐藤先生から「Proself を利用した各種資料の掲載について」報告があった（追加資料 1）。これは様々な資料を、獣医学関係者がいつでも閲覧できるようにするためのウェブサーバ

一であり、今後はすべての情報は Proself で公開する方向であること、全国議事録はここにすでに公開されていることが報告された。今後の運用について、セキュリティと掲載内容の吟味について検討が必要と思われる。

#### 8) 共用試験センター報告

北里大・高井先生から資料 p80-94 を用いて報告があった。

さらに CBT 委員会(北大・坪田先生)からトライアル実施状況と今後について(資料 p95-109)、システム環境検討委員会(北大・石塚先生)から CBT トライアルで起きたトラブルについて、vetOSCE 委員会(帯畜大・山岸先生)から OSCE の現状について(資料 P110-151)、それぞれ報告があった。

#### 9) 獣医学国際化検討委員会

前回からの要請を受けて本委員会が立ち上がり、委員長である岐阜大・杉山先生から答申案が提出された(資料 p60-p79)。今回の案に対して意見を出していただき、次回の全国協議会で最終案として提出することとなった。

#### 10) その他

農林水産省消費・安全局動物衛生課 伊藤和夫室長(国際衛生対策室)から配布資料を用いて、国際獣疫事務局(OIE)による獣医組織能力評価の実施について説明があった。PVS 評価をうけることとなり、平成 28 年 10 月 11-26 日に 3 名の審査者が来日し、中央省庁、地方組織、現地を訪問する予定である。また口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、豚コレラの発生について注意喚起が行われた。

続いて、尾崎会長から、以下 3 点について報告がなされた。

##### ●全国協議会の法人化：

マイナンバー制度の導入から、当協議会も会計、税務の手続き上から法人格が必要となる可能性が高い。支援機構に入った方が良いのではないか。

●全国協議会の会則について不備な点がいくつかあるので、次回改正案を提出する予定である。

●河合塾ガイドライン(高校教員向けの進路指導情報誌)の紹介。

農林水産省大石明子氏から獣医療提供体制整備推進総合対策事業（獣医学生、高校生向けの奨学金）について情報提供があった。

次回開催： 3月27日（月）13時、東京大学3号館4階 教授会室